

阿波市阿波町における医薬品利用調査

民間薬調査班 (徳島生薬学会)

川添 和義 ^{*1}	伏谷 秀治 ^{*1}	柏田 良樹 ^{*2}	金 尚永 ^{*2}	佐々木久子 ^{*2}	三橋 洋介 ^{*2}
大道 由佳 ^{*2}	栗本慎一郎 ^{*2}	篠崎 陽介 ^{*2}	柴山恵美子 ^{*2}	上甲 恭弘 ^{*2}	渡邊 典之 ^{*2}
石井 康世 ^{*3}	北岡 信 ^{*3}	鮫島 美里 ^{*3}	田島壮一郎 ^{*1}	櫻田 巧 ^{*1}	中川 博之 ^{*1}
川田ちひろ ^{*1}	河野 渉 ^{*1}	桑原 絵美 ^{*1}	田岡 寛之 ^{*1}	玉城 武尚 ^{*1}	廣瀬由記子 ^{*1}
今林 潔 ^{*4}	今林 優佳 ^{*4}	高石 喜久 ^{*2}	水口 和生 ^{*1}		

要旨：徳島県の各地域に伝承される医薬品調査の一環として、徳島県阿波市阿波町（旧阿波郡阿波町）における民間薬調査を行った。また、同時に配置家庭薬および薬局で購入できる医薬品（over the counter drug；OTC医薬品）類の利用調査を行い阿波町における総合的な医薬品利用実態調査を行った。戸別訪問形式で利用医薬品の調査を進めたところ、737戸を訪問して1,676件の民間薬に関する情報を得た。また、その中で配置家庭薬は236戸、OTC医薬品類は415戸で利用しているという回答を得た。民間薬については伝承されている薬材に偏りがあり、また、1戸あたりの情報数が少なかったことから、本地域においても、他の都市部と同様に民間伝承が衰退しつつあることがわかった。

キーワード：民間薬、配置家庭薬、OTC薬、阿波市阿波町、イシャイラズ

1. はじめに

各地に残る伝承医薬文化は時代とともに減衰し、多くの場合は継承がなされず消滅する。これは、これら医薬品が書物により継承されないことに一因があり、また、逆にこのことが多彩な伝承医薬品を形成する要因ともなっている。このような口伝による文化の継承が確実に行われるためには①継承の担い手がいること、②継承の内容が生活に必要なことの2点を満たす必要があると考えられる。しかし現在、いずれの地方においても上記の両方を満たさない場合がほとんどであり、これが伝承医薬文化の減衰に大きく関わっていることは明らかである。①の担い手については特に核家族の増加により、授ける人と受ける人が同じ場所にいないことが多くなったこと、さらに、集落の高齢化や過疎化によりどちらの人も少なくなっていることから、継承の最も大きな障害になっていると考えられる。②の継承内容については、特に医薬品文化の観点から考える

と、安価で利用しやすい医薬品が身の回りに増えてきたことから特に天然産物による治療を必要としなくなったこと、また、交通の発達等により医療機関における診療が著しく容易になったことから、継承すべき内容が時代とともに少なくなっているものと思われる。徳島県においても事情は全く変わることはなく、むしろ、本県における加速度的な高齢化や過疎化は伝承の断絶に一層拍車を掛けているものと考えられる。

これまで、徳島生薬学会民間薬調査班は、各地域における伝承医薬品の継承状況について精査を行ってきた。その結果、いずれの地域においても伝統的な医薬品継承は衰退の一路をたどっていることがわかってきた。そこで今回は、例年と同じく伝承医薬品の利用実態調査、「イシャイラズ」などと呼ばれる医薬品に関する調査を行うとともに、継承減衰の原因の一つと考えられる伝承内容の必然性・必要性に目を向けて、伝承医薬品以外の医薬品に関する利用状況調査を通して、口伝が衰退しつつある原因の

* 1 徳島大学医学部・歯学部附属病院薬剤部

* 2 徳島大学大学院薬科学教育部生薬学分野

* 3 徳島大学薬学部生薬学研究室

* 4 徳島大学薬学部薬用植物園

表1 性別・年齢別の情報収集件数（件）

	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	計	回答数 (戸)	1戸あたりの 平均回答数	用途 不明	用途不明と回答 した比率 (%)
男 性	61	34	85	105	110	15	18	428	222	1.9	138	32.2
女 性	25	84	170	257	208	84	37	865	421	2.1	283	32.7
複 数	0	10	34	62	71	23	41	241	51	4.7	74	30.7
不 明	0	0	6	13	11	2	110	142	43	3.3	54	38.0
計	86	128	295	437	400	124	206	1,676				
全回答件数に 対する割合 (%)	5.1	7.6	17.6	26.1	23.9	7.4	12.3	-				
回答数 (戸)	55	76	132	182	170	64	58	737				
1戸あたりの平 均回答数	1.6	1.7	2.2	2.4	2.4	1.9	3.6	2.3				
用途不明	20	29	103	147	153	30	67	549				
用途不明と回答 した比率 (%)	23.3	22.7	34.9	33.6	38.3	24.2	32.5	32.8				

検証を試みた。

今回の調査を行った阿波市阿波町は、昨年の調査地である美馬市に隣接し、讃岐山地の南斜面と吉野川北岸の比較的平野の多い地域からなる。歴史的には、撫養街道（現在の県道29号線）を核として徳島市に近い街道沿いの町の一つとして古くから栄え、現在に至っている。阿波市阿波町はかつて阿波郡阿波町と称していた地区であり、平成17年4月1日に阿波郡と、隣接する板野郡の一部との合併により現在の阿波市となった。合併前の平成12年の統計によると、旧阿波町には1万4千人弱（約4千世帯）が暮らしており、その3割弱が65歳以上の高齢者であった¹⁾。

これまで本地区における民間薬の調査はほとんどなされたことがなかったことから、今回、戸別訪問（サンプル調査）により、地域に伝承される民間薬

に関する情報の収集を行った。また、伝承医薬品だけでなく、配置家庭薬（以下、配置薬）の利用や薬局や薬店で処方箋なしに購入できる医薬品類（over the counter drug；以下、OTC薬）の利用状況についても調査し、伝承医薬品の継承との相関性について考察を加えた。

2. 調査方法

1) 調査期間

調査は基本的に平成21年8月1日から3日間行った。さらに必要な情報収集についてはそれ以降も行った。

2) 調査形態・内容および同定

伝承医薬品の調査、同定については平成19年に行った美馬郡木屋平地区の調査²⁾（以下、木屋平調査）に準じた。配置薬とOTC薬についても戸別訪問に

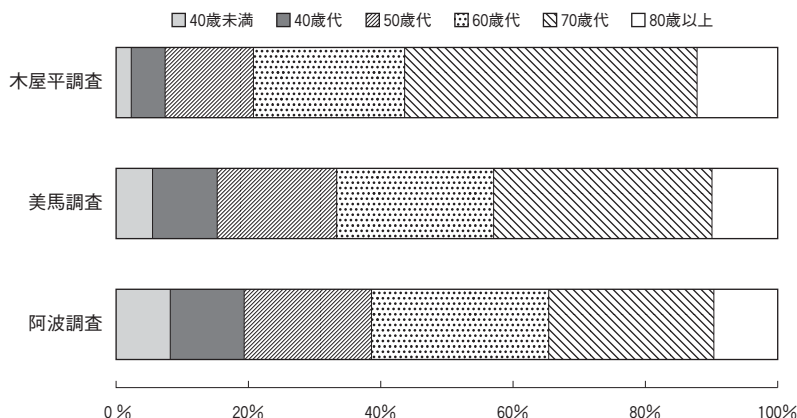


図1 回答者年齢構成比

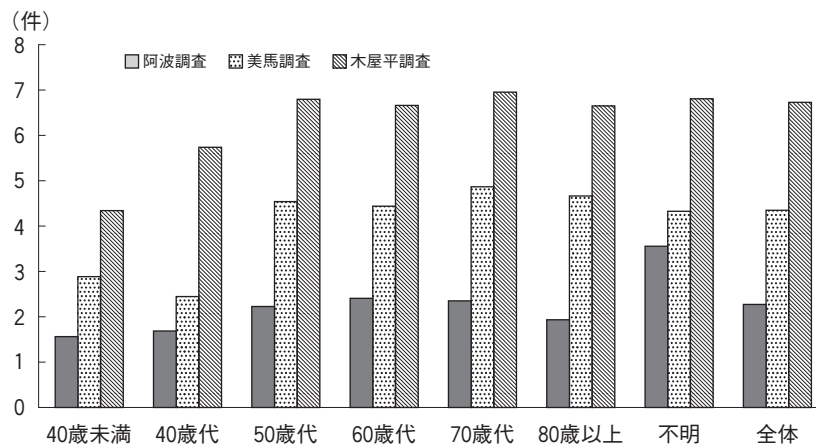


図2 一戸あたりの情報数

よって行った。調査内容は配置薬およびOTC薬の利用の有無（家族，同居人を含めて）と，利用のある場合は直近の1年間で利用率の高かった薬の用途別種類について尋ねた。医薬品類の種類は解熱鎮痛薬，感冒薬，胃腸薬，ビタミン剤，化粧品，生薬製剤，ドリンク剤，目薬，外用薬，医薬部外品，健康食品，ガーゼ・絆創膏など，その他の計13種類に分類した。ただし，調査期間中での全戸調査は難しかったため，全地区から無作為に調査対象を選び調査した。

3. 調査結果および考察

1) 調査対象

調査対象は男性が回答したのが222戸（30.1%），女性は421戸（57.1%），複数名で回答51戸（6.9%）不明43戸（5.8%）の合計737戸であった。これは当地区全戸数（平成12年当時）の約18%に相当する。性別，年齢別の情報収集件数は表1に示すとおりである。回答者の年齢構成は年齢不明であったものを除くと，平成20年度の美馬町における調査³⁾（以下，

表2 品目別情報件数と用途不明件数

a. 情報件数が15件以上（件）				b. 情報件数が3～14件	
	全情報	用途不明	用途不明率(%)		
ドクダミ	353	131	37.1	10～14件（5品目）	スギナ，カリン，ウラジロガシ，オトギリソウ，キンカン
アロエ	211	46	21.8	9～5件（16品目）[*有効回答が2件以下 3品目]	ダイコンソウ，タラノキ，ヒガンバナ，センナ，トマト*，アシタバ，イタドリ，サルノコシカケ，ショウガ，ツワブキ，ムカデ，タンポポ*，トチュウ，ハトムギ，マグワ*，ヤーコン
センブリ	128	29	22.7	3～4件（27品目）[*有効回答が2件以下 10品目]	アサガオ，アザミ*，イセエビ，キハダ，キュウリ，サフラン，ダイコン，チリメンジソ，鶏卵，梅干*，アオジソ，イチジク*，キササゲ*，クチナシ*，シイタケ，ジャガイモ，スイカズラ*，チャノキ*，ツユクサ，トウモロコシ，ニンニク*，ネギ，マタタビ*，マツ*，ミミズ，モモ，モロヘイヤ*
ヨモギ	108	18	16.7		
ゲンノショウコ	96	40	41.7		
オオバコ	54	29	53.7		
ビワ	38	18	47.4		
ユキノシタ	37	17	45.9		
ニガウリ	33	11	33.3		
ニホンマムシ	31	10	32.3		
カキノキ	31	15	48.4		
アマチャヅル	30	24	80.0		
ウコン	27	10	37.0		
ウメ	23	7	30.4		
ホウセンカ	22	7	31.8		
エビスグサ	19	7	36.8		
セイヨウリンゴ	18	12	66.7		
クコ	18	13	72.2		

美馬調査)と類似しており、60歳代以下で回答者数の約6割を占めている(図1)。木屋平調査と比較すると明らかに若年層の比率が増加しており、伝承の担い手が若い世代に移りつつあることを示している。

2) 情報の概要

得られた情報は全部で1,676件であり、これらを種類別に見ると、植物由来1,583件、動物由来61件、菌類11件、加工品・その他21件であった。1戸あたりの平均回答数は、40歳未満で1.6件、50歳代以上でも3件を上回ることなく、全体の平均で2.3件であった。以前の美馬調査と比較しても明らかに少なく、木屋平調査の半分以下であった(図2)。

得られた情報のうち、利用目的がわかっている有効な情報は1,127件で、利用目的が「不明」という回答は、情報件数全体の32.8%に当たる549件であった。これは、木屋平調査で21.1%、美馬調査で25.1%であったことを考えると著しく高い数字であるといえる。つまり、民間薬について名前は知っているが使っていない、または、使い方を知らないということを示唆している。

民間薬は全体で179種類確認されたが、そのうち利用法がわかっている有効なもの153種類であった。さらに有効な回答として3回以上出現したものは全確認数の30.0%にあたる53種類であった(表2)。有効な情報数の多いものから並べると、木屋平調査では上位8位までの合計で全体の半数を超過するのに対して、本調査ではドクダミ、アロエ、センブリ、ヨモギの上位4種で半数を超過していることがわか

る(表3)。この傾向は、昨年(2019年)の美馬調査と類似しており、上位10位に出現する薬物も1品目を除いて同じである。一方、ドクダミと同程度の比率で2位にニホンマムシがあり、上位10位にタヌキが入っている木屋平調査とは民間薬の利用状況が大きく異なることが示唆された。

3) 利用目的・方法について

目的の疾患として最も多かったのが消化器疾患(胃腸障害, 下痢, 便秘, 胸焼けなど)で、のべ319件確認された。以下、健康増進が123件、火傷が120件、ハチ・ムカデなどの虫さされが99件と続いた。どの年齢層においてもこれらが上位になっている。これら以外に、止血、風邪・咳、解毒、外傷など多岐にわたって利用されていた。また、がん、心疾患、肝疾患、腎疾患や高血圧、脂質異常症、前立腺疾患など、およそ民間薬治療の領域を越えると思われるものも多く見られた。各疾患に用いられる薬材は、消化器疾患でセンブリ(同疾患に利用される薬材数の37.3%, 以下同じ)、ゲンノショウコ(17.0%), ドクダミ(14.2%), アロエ(9.3%)の4種が多く利用されていた。美馬調査でも消化器疾患に対して利用される民間薬が最も多かったが、その起原としてはアロエが最も多かった。健康増進の目的で利用されるものとしてはドクダミが42.3%で最も多かったが、その他ニガウリやゲンノショウコ、カキノキ、アマチャヅルなど多種用いられていた。一方、火傷ではアロエが85.1%、虫さされでもアロエが61.2%を占めており、この結果も美馬町の結果と非常に類似している。なお、虫さされには白花のハウセンカ

表3 調査地別有効情報数

阿波調査	情報件数	累積(%)	美馬調査	情報件数	累積(%)	木屋平調査	情報件数	累積(%)
ドクダミ	222	19.7	アロエ	307	19.4	ドクダミ	102	11.1
アロエ	165	34.3	ドクダミ	230	34.0	ニホンマムシ	85	20.4
センブリ	99	43.1	ヨモギ	170	44.7	ゲンノショウコ	73	28.4
ヨモギ	90	51.1	センブリ	109	51.6	センブリ	66	35.6
ゲンノショウコ	56	56.1	ゲンノショウコ	68	55.9	ヨモギ	52	41.3
オオバコ	25	58.3	ユキノシタ	47	58.9	オオバコ	34	45.0
ニガウリ	22	60.2	ニホンマムシ	41	61.5	ユキノシタ	23	47.5
ニホンマムシ	21	62.1	オオバコ	36	63.8	アロエ	23	50.0
ビワ	20	63.9	ビワ	35	66.0	キハダ	20	52.2
ユキノシタ	20	65.7	カキノキ	20	67.2	タヌキ	20	54.4
総数	1,127		総数	1,581		総数	916	

を使うという回答も比較的多く見られた。

利用方法としては一般的な方法（煎じる、酒に漬けるなど）がほとんどであり、特殊な調製法は見られなかった。また、ほぼ単味で利用されており、配合で利用すると回答したのは1件のみだった。

今回の調査で確認された薬材について、地方名、利用部位、利用目的、利用方法を表6にまとめた。なお、表6において情報数の極端に少ない民間薬または使用目的についてはアスタリスク（*）を付した。また、使用部位は主なものを記載した。

4) 「イシャイラズ」調査

これまでの調査と同様に「イシャイラズ」などと呼ばれる民間薬があるかどうかを尋ねた。今回の調査では情報件数の約14%について、イシャイラズなどと呼んでおり、このパーセンテージは美馬調査（約15%）と類似したものとなった（表4）。しかし、起原については美馬調査では84%がアロエであったのに対して、本調査ではドクダミ、アロエ、ゲンノショウコがほぼ同率で出現し、これらで全体の約70%を占めていた。年齢別に見ると「イシャイラズ」というものを知っていると回答したのは70歳代が一番多く、80歳以上と若年層で少ない傾向が見られた。本調査では、これまであまりなかったリンゴ（セイヨウリンゴ）が比較的多く出現しており、これも伝承ではなく外部からの情報が影響しているものと考えられる。

5) 薬材の名称

民間薬の名称として方言で回答があったものはほとんどなく、わずかにドクダミに関して約60%で「ジュウヤク」、ニガウリは約79%で「ゴーヤ」という回答であった。ニガウリに関しては「ゴーヤ」と

いう名称が徳島でも一般的であるためと考えられる。他に、シラカシ（ウラジロガシ）、イワジシャ（イワタバコ）など散見されたが、ドクダミなどを除くと方言での回答は少ないと思われる。これは美馬調査でも見られた傾向で、民間薬利用の衰退を示す傍証の一つと考えられる。

6) 配置薬、OTC薬の利用について

配置薬は古くからこの地域を含め、多くの地域で利用されてきた医療形態のひとつである。繁用される医薬品を取りそろえて配置家庭薬販売業の許可を得た販売業者や配置員が各家庭に配置し、次回訪問時に利用した分だけ精算し、医薬品を補充するという販売形態をとっている。これは、かつて、地域の医療機関、薬局の数が不十分で、その利用が困難であった時代には大変合理的な形態として多くの家庭で取り入れられていたものである。しかし、時代とともに医療形態も変化し、最近では置いているのみで利用がほとんどないという家庭も増えている。そこで、本調査では配置薬およびOTC薬（over the counter drug；薬局で処方箋なく購入可能な医薬品類）の利用についてその実状を調査し、医薬品利用形態についてさらに精査した。

配置薬は調査戸数全体の約32%にあたる236戸で利用すると回答した。最も多く利用していた年齢層は40、50歳代で、37%程度以上の人が利用していることがわかった（表5）。しかし、総じて利用率は低く、80歳以上では2割程度の利用にとどまっていた。利用している場合、よく使われるのは感冒薬、胃腸薬、解熱鎮痛剤であった。一方、OTC薬は5割以上の人が利用していると回答しているが、70歳代以上で利用は低い。利用している場合、外用薬、

表4 年齢別に見た「イシャイラズ」などと呼ばれる薬材（件）

	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	計
ドクダミ	0	4	10	14	20	9	3	60
アロエ	2	7	11	14	10	3	7	54
ゲンノショウコ	1	1	7	11	26	4	2	52
センブリ	0	2	3	3	8	2	1	19
セイヨウリンゴ	5	2	3	4	0	0	2	16
その他・不明	0	3	10	9	9	0	7	38
計	8	19	44	55	73	18	22	239
全体の回答数に対する比率（%）	9.3	14.8	14.9	12.6	18.3	14.5	10.7	14.3

表5 年齢別の配置薬・OTC薬利用率と利用頻度の多かった医薬品上位3種

	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	計
(件)	13	28	49	60	52	14	20	236
(%)	23.6	36.8	37.1	33.0	30.6	21.9	34.5	32.0
配置薬	胃腸薬	解熱鎮痛薬	感冒薬	感冒薬	感冒薬	感冒薬	感冒薬	感冒薬
	感冒薬	感冒薬	解熱鎮痛薬	外用薬	胃腸薬	外用薬	胃腸薬	胃腸薬
	解熱鎮痛薬	ガーゼ・絆創膏	胃腸薬	胃腸薬	外用薬	解熱鎮痛薬	外用薬	解熱鎮痛薬
(件)	35	50	89	110	78	19	34	415
(%)	63.6	65.8	67.4	60.4	45.9	29.7	58.6	56.3
OTC薬	解熱鎮痛薬	目薬	外用薬	外用薬	外用薬	胃腸薬	外用薬	外用薬
	感冒薬	感冒薬	胃腸薬	感冒薬	胃腸薬	外用薬	胃腸薬	感冒薬
	外用薬	外用薬	感冒薬	胃腸薬	感冒薬	目薬・医薬部外品	感冒薬	胃腸薬

感冒薬、胃腸薬の利用が比較的高いことが判明した。年齢別に見た場合、若年層では解熱鎮痛薬、目薬などが多く、年齢が高くなると外用薬の利用が多い。

配置薬、OTC薬利用と民間薬の平均回答数との関係を見てみると、配置薬を利用している人と利用していないと回答した人の、一人あたりの民間薬の平均回答数はそれぞれ2.75件と2.00件で、配置薬を利用していると回答した人の方が有意に多くの民間薬を挙げていることがわかった (p<0.05)。また、OTC薬を利用すると回答した人で同じく2.51件、利用していないと回答した人で1.90件と、これも有意差が確認された (p<0.01)。配置薬、OTC薬いずれもその利用と民間薬の平均回答数との間には相関のあることがわかった (いずれもt検定による)。

4. 総括

民間薬利用について以前の調査と比較すると、本調査の結果は全体的に平成20年の美馬調査と非常に似ていることがわかる。異なる点は、美馬調査で見られたアロエの独特な利用法が見られなかったこと、1人当たりの回答数が美馬調査の約半分であったこと、用途不明と回答した率が高かったことである。出現する薬材やその出現頻度については美馬調査とあまり変わりなく、ドクダミ、アロエ、センブリ、ヨモギという4種類で利用の半数以上を占めていることから、伝承されている薬材の種類が少ないことがわかる。これは、都市部における民間薬伝承の特徴とも考えられ、多くの民間伝承はこのように数種類のみを残して、他は徐々に伝承されなくなって

いくためと思われる。出現率5位のゲンノショウコ以下はほとんど同じような比率で出現していることも、伝承医薬品数の減少をよく表している。一方、ニガウリなど、本来伝承の対象となっていなかったものが比較的上位に出現していることから、伝承ではなく書物やメディアを通じた民間薬利用が拡大していることが窺える。このことは、民間薬に関する方言が衰退していることから推測される。したがって、上位に出現したドクダミやアロエなども同様に親から子へ伝わるローカルな伝承以外の方法にサポートされている可能性も高い。同様のことが「イシャイラズ」調査にも現れている。「イシャイラズ」として回答された上位のものは他地域の調査でも上位に出現しているが、美馬調査では見られなかったリンゴ(セイヨウリンゴ)が「イシャイラズ」の5位に出現していることは、明らかに書物等の影響であると考えられる。

一方、配置薬、OTC薬の利用と民間薬の平均回答数との相関から見ると、配置薬などの利用が高い人は民間薬の平均利用率が高い傾向が見られた。これから推測できることは、これまで利用されてきた民間薬が配置薬やOTC薬に置き換わったわけではなく、これらの利用が民間薬伝承の衰退に直接関わっている可能性は低いということである。むしろ、民間薬をよく利用している人は配置薬や薬局で購入する医薬品もよく利用している可能性があり、医薬品に対する関心が高いとも考えられるが、この相関の妥当性については今後も調査を続ける必要があると考えている。

今回の調査から、民間薬利用の衰退と配置薬やOTC薬利用との関係は直接には見いだせなかったが、一戸あたりの民間薬回答数やイシャイラズとして「セイヨウリンゴ」など古くからの伝承薬とは考えられない薬材の出現がみられたことから、美馬調査より伝承の度合いが低い可能性のあることが判明した。また、民間薬の名前は知っているが用途を知らないという回答が多く、実生活の中に民間薬があまり登場しないことが推測された。阿波市阿波町は美馬市美馬町と同じく都市化が進んだ町であるが、より徳島市に近い阿波市阿波町の方が医薬品伝承文化を速く失いつつあるように感じられる。

5. おわりに

最近の調査として、東祖谷地区（三好市）、木屋平地区（美馬市）、美馬地区（美馬市）と山間部から順次都市部へと進めてきたが、都市部に近づくほど医薬品伝承の度合いが低くなっていく傾向が見られる。今回の阿波市阿波町の調査ではそれを決定づけるかのように、伝承医薬品というものが限られた数種類のものとなっている実状が明らかになってきた。この地域でも本来は多くの伝承があったはずである。しかし、自家用車が普及し、高速道路が整備

されて徳島市や近隣の市町村へのアクセスがよくなってくると伝承医薬品の価値は顧みられなくなる。また、核家族化の波を受けて伝承の担い手も減少する。どの地域でも起こっていることではあるが、これまでの調査から都市部では前者の、山間部では後者の要因が大きいと思われた。今回の調査から、さらに、交通の利便性が高い地域においては伝承衰退の度合いがより大きいことも明らかになってきたように思える。ただ、重要なことはこのような地域であっても全く伝承がなくなっているわけではなく、メディアやその他の媒体を支えとして何らかの形で天然医薬品が根付いていることもわかった。たとえ、数種類のものであったとしても天然医薬品の価値が認められ後世に残ることを考えると、継承の担い手が減少していく現代では、これら民間伝承を口伝に頼るのではなく文字で残していくことが必要と考えられる。

参考文献

- 1) 平成12年国勢調査，総務局統計局。
- 2) 徳島生薬学会（2008）：美馬市木屋平地区の民間薬調査，阿波学会紀要，54，101-111。
- 3) 徳島生薬学会（2008）：美馬市美馬地区の民間薬調査，阿波学会紀要，55，79-89。

表 6

植物			
		ウツボグサ タワラグサ	〔全草〕 利尿，腎疾患
アオジソ	〔葉〕 風邪薬*，夏ばて*，胃腸障害* 酒漬，ショウガ・レモンと一緒に つける	ウメ	〔果実〕 腹痛，下痢・腹痛，夏ばて・疲労回復 酒漬，エキス，黒焼
アカメガシワ*	胃腸障害	ウラジロガシ シラカシ シラガシ	〔葉〕 (腎・膀胱) 結石 煎じる，生利用
アケビ*	〔莖，果実〕 腎臓，神経関係	ウンシュウミカン* ミカン	〔果実〕 風邪
アサガオ	〔花〕 蜂刺され，胃腸障害* 生を揉んで使う	エビスグサ ケツメイシ ハブ ハブソウ ハブチャ	〔種子，全草〕 便秘，胃腸障害，利尿，食中毒* 煎じる，生利用
アザミ	〔根・根茎〕 解熱*，胃腸障害*，神経痛* 煎じる	オオバコ アバコ	〔全草〕 喘息，利尿・腎疾患，胃腸障害・下痢， 膿だし* 煎じる，黒焼
アシタバ	〔地上部〕 血液をきれいにする*，滋養強壮* 天ぷら，おひたし	オトギリソウ	〔全草〕 外傷・化膿止め，火傷*，腹痛* 煎じる，酒・油漬け
アマチャヅル	〔全草〕 健康増進，糖尿病* 煎じる	オミナエシ*	腎疾患
アロエ	〔葉〕 虫刺され，火傷，胃薬，すり傷・切 り傷 生利用，酒漬	カキドオシ*	胃腸障害
アンズ*	〔果実〕 血の循環をよくする* 酒漬	カキノキ カキ，カキノハ シブガキ	〔葉，果実〕 高血圧，健康維持，虫さされ，アト ピー* 生利用，茶料
イタドリ	〔根・根茎〕 腎臓疾患，風邪，咳止め，熱さまし*， 利尿* 煎じる	カタバミ* キバナカタバミ	虫さされ
イチジク*	〔果実・葉〕 腹痛，できもの 食用(青い実を味噌汁に入れる)， 煎じる	カニクサ* カニグサ	前立腺疾患 煎じる
イチヨウ*	〔葉〕 耳鳴り 酒漬	カミツレ* カモミール	不眠 茶料，生利用
イワタバコ* イワジシャ	〔全草〕 腎臓，胃，子宮の疾患 食用	カリン	〔果実〕 咳止め・喉の疾患，小児の初期の風 邪* 酒漬，炊きだす
ウイキョウ*	胃薬	カワラナデシコ*	婦人病
ウコン	〔根・根茎〕 肝臓，血圧，健康維持，二日酔い 煎じる，乾燥させて粉末にする	カワラヨモギ*	〔全草〕 体が温まる 浴用
ウツギ* ウツキ	腎臓疾患	キササゲ*	〔果実〕 利尿・腎疾患 煎じる
		ギシギシ*	水虫
		キツネノマゴ*	糖尿病

* 極端に情報数の少ない民間薬または利用目的

表6 (続き1)

キハダ オウバク, キワダ	〔樹皮・葉〕 腹痛, 打ち身*, 利尿* 煎じる	シヨウガ	〔根・根茎〕 風邪 すってネギと一緒につかう, すり 下ろして甘くして飲む, 青ジソと 一緒につける
キュウリ	〔果実〕 火傷, 心・腎疾患* すり下ろして患部に貼る (火傷), 瓶に入れて一年ほど放置して使用	シヨウブ*	保温
キリ*	〔葉〕 腎疾患 煎じる	スイカ*	〔果実〕 腎疾患・浮腫 生利用
キンカン	〔果実〕 咽の痛み, 風邪 蜂蜜・砂糖漬け, ジャム, 生食	スイカズラ* スイスイバナ	〔全草〕 毒下し, 腎疾患 煎じる
キンミズヒキ*	腎疾患	スギナ	利尿, 痛風, 血圧降下* 煎じる
クコ	〔果実, 葉〕 糖尿病, 疲労回復, 高血圧・肝疾患* 煎じる	スモモ*	〔果実〕 夏ばて 酒漬け
クズ*	解熱	セイヨウリンゴ リンゴ	〔果実〕 風邪, 滋養強壮, 胃腸障害 食用, 黒焼
クチナシ*	〔果実〕 風邪, 捻挫・鎮痛 黒豆と煎じる, 粉にして小麦粉と 混ぜ患部に貼る (捻挫)	セリバオウレン*	胃腸障害 煎じる
グミ*	胃腸障害	センナ	〔全草〕 便秘, 回虫 煎じる
クリ*	〔葉〕 外傷, 火傷 黒くなるまで煮詰める	センニンソウ*	〔葉〕 風邪をひかない もんでツボに1時間ほど貼る
ゲンゲ* レンゲソウ	冷え性	センブリ センブリ	〔全草〕 胃腸障害, 風邪*, 婦人病*, 二日酔い* 煎じる (振り出す)
ゲンノショウコ イシャダオシ	〔全草〕 胃腸障害, 便秘, 風邪, 夏ばて・疲 労回復 煎じる	ソクズ*	虫下し
コハコベ* ハコベラ, ホコベグサ	口内炎, 化膿 患部にすり込む	ソラマメ*	〔果皮〕 滋養強壮 煎じる
サツマイモ*	便秘	ダイコン	〔根・根茎, 葉〕 風邪・喉の痛み, 腎疾患 (葉)* 蜂蜜漬け, 洗って干す
サトイモ*	虫さされ 生利用	ダイコンソウ	〔全草〕 利尿・腎疾患, 解熱*, 風邪* 煎じる
サネカズラ*	〔果実〕 アレルギー 煎じる	ダイズ*	〔種子〕 高血圧 酢漬け
サフラン	〔花〕 解熱 振出	ダイダイ*	〔果実〕 疲労回復, 咽の痛み 浴用, 実を搾って砂糖湯に溶かす
ジャガイモ	〔地下茎〕 子供の発熱, 火傷 すりおろして足の裏に貼り付ける	タバコ*	〔葉〕 止血 刻みタバコを患部に貼る
ジュズダマ*	咳止め		

表6 (続き2)

タマネギ*	〔皮〕 高血圧 茶色い皮を煎じる	ナタマメ*	〔果実〕 強壯 未熟なときに味噌漬けにして食べる (成熟果実は有毒)
タラノキ タラ	〔樹皮, 新芽〕 糖尿病, 高血圧(新芽)*, 肝疾患* 先日	ニガウリ ゴーヤ	〔果実〕 糖尿病, 健康増進, 夏ばて, 高血圧, 風邪の予防* 食用, 乾燥して粉にする, 煎じる
タンポポ	〔根・根茎〕 糖尿病* 天ぷらなど食用	ニラ*	〔葉〕 滋養強壯, 胃腸障害 食用
チドメグサ*	〔葉〕 止血 生利用	ニワトコ*	〔全草〕 腎疾患 煎じる
チャノキ* バンチャ	〔茎〕 健康増進 茶にする	ニンニク*	〔根・根茎〕 皮膚の荒れ, 滋養強壯 酒漬け, 浴用, 食用
チョウセンニンジン*	滋養強壯	ネギ*	〔葉〕 風邪の喉の痛み, 高血圧 黒焼き, 食用
チリメンジソ* チソ	〔葉〕 滋養強壯 食用	ネムノキ* ネム	腎疾患
ツゲ*	〔茎〕 腹痛 生利用	ノイチゴ*	〔根〕 前立腺疾患 煎じる
ツユクサ*	〔茎, 葉〕 腎疾患, 外傷, いぼ 茎の汁を患部に付ける(いぼ)	ノカンゾウ*	〔全草(開花後)〕 便秘 煎じる
ツルムラサキ*	健康増進 食用	ノキシノブ*	〔全草〕 肝疾患 煎じる
ツワブキ スワブキ	〔葉〕 足の鎮痛, 外傷* 生の葉を患部に揉んで貼る	ノコギリソウ*	虫下し
トウガン*	〔果実〕 利尿, やせ薬 スープにする	ハス* レンコン	〔果実, 根茎〕 健康増進, 肝機能向上 食用
トウモロコシ*	〔雌しべ〕 腎疾患 煎じる	ハトムギ	〔果実〕 いぼ, 腎疾患*, アトピー* 煎じる, 茶料
ドクダミ ジュウヤク	〔地上部〕 利尿, 冷え性, 胃腸障害, 化膿・解毒, 虫さされ, 皮膚炎, 高血圧, 滋養強壯 煎じる, 黒焼, 蒸し焼き(ゴボウ, フキの葉やアルミホイルなどに包む)	バンジロウ* グアバ	〔葉〕 高血糖 煎じる
トチュウ	〔葉〕 高血圧, 腎疾患* 煎じる	ヒガンバナ マンジュシヤゲ	〔根・根茎〕 足の腫れ, 膝・関節痛 すって足裏に貼る
トマト	〔果実〕 胃腸障害, 便秘 食用	ヒトツバ*	〔葉〕 爪の膿 生利用
		ヒヨドリジョウゴ*	子宮がん
		ヒルガオ*	胃腸疾患

表6 (続き3)

ビワ	〔葉, 種子, 花〕 風邪, 頭痛, 咳止め, 皮膚疾患, 高 血圧, 健康増進 煎じる (花の基部を煎じる), 生 利用 (種子の中身をつぶして貼る)	ヤマノイモ* ヤマイモ	〔根〕 足の浮腫 すって湿布にする
フキ*	〔根・根茎〕 咳止め 煎じる	ヤマブドウ*	〔全草〕 高血糖 酒漬け
フジ*	〔花〕 抗がん剤の副作用軽減 乾燥して粉にして服用	ユキノシタ	〔葉, 花, 全草〕 中耳炎・耳痛, 虫さされ, 解熱, 歯 槽膿漏 塩でつぶして詰める (耳疾患, 歯 槽膿漏), 食用
ブルーベリー*	〔果実〕 目の疾患 食用	ユズ* ユウ	〔種子, 果実〕 皮膚疾患, あかぎれ 浴用, 酒漬け
ヘチマ*	腎疾患	ヨモギ ユムギ, ヨムギ	〔葉〕 止血, 外傷, 火傷, 虫さされ, 冷え 性, 胃腸障害 揉んで患部に貼る, 食用, 煎じる
ホウキギ* ホウキグサ	〔葉〕 腎疾患 煎じる	ラベンダー*	不眠 煎じる
ホウセンカ	〔花 (白花)〕 虫さされ・かゆみ止め, 火傷・ニキ ビ, 神経痛* 焼酎漬け, 煎じる	リンドウ*	胃腸障害 煎じる
ホルトソウ*	〔乳液〕 虫さされ, 虫下し 生利用	動物	
マクリ* ハイジンソウ	虫下し 煎じる	アマガエル*	〔全体〕 胃腸障害 生きたまま飲み込む
マグワ クワ	〔葉〕 身体を温める*, 高コレステロール・ 高血糖* 浴用, 煎じる	イセエビ	〔殻〕 麻疹 殻を炊いて汁を飲む
マタタビ*	〔果実〕 鎮痛, 滋養強壯 酒漬け, 粉にする	ウシ* ウシノツノ	〔角〕 解熱, 化膿, 麻疹 角を削って飲む
マツ*	〔葉〕 二日酔い, 胸焼け, 血行促進 煎じる, 生利用 (汁を飲む), 酒漬 け	クモ*	〔全体〕 ハチ, ムカデ刺され 油漬け
メグスリノキ*	〔茎, 葉〕 喘息, 肝疾患, 眼疾患 煎じる	シマヘビ*	〔全体〕 結核 身を粉にして飲む
モモ*	〔葉〕 湿疹, アトピー, 汗疹 煎じる, 生利用	ナメクジ*	〔全体〕 肝疾患, 喘息 丸呑みにする
モロヘイヤ*	便秘, 健康増進 食用	ニホンマムシ ハブ, ハメ, マムシ, ヘビノカワ	〔全体, 皮〕 滋養強壯 (全体), 化膿 (皮), 解熱, 鎮痛, 胃腸障害* 酒漬け, 粉にして飲む
ヤーコン	〔根, 葉〕 高血糖, 高血圧, リウマチ* 食用, 煎じる	ミミズ*	〔全体〕 胃疾患, 火傷, 耳の後ろが切れたと き 這わせる (外用)
ヤマゴボウ*	腎疾患		

表 6 (続き 4)

ムカデ	〔全体〕 ムカデ刺され 油漬け，酒漬け
鶏卵*	〔殻，薄皮，全体〕 薄毛（殻），打ち身（薄皮），滋養強 壯（全体） 酒に浸けて患部に貼る（薄毛）， そのまま貼り付ける（打ち身）
蜂の巣*	〔全体〕 栄養失調，疳積 食用

菌類

サルノコシカケ	〔全体〕 各種がん 煎じる
シイタケ*	〔全体〕 高血圧 煎じる，水に浸けて飲む
靈芝*	〔全草〕 肝疾患，がん 煎じる

加工品

焼塩*	胃が重いつき 袋に包んで腹に置く（湯たんぽの 代わり）
醤油*	火傷 生利用
酢*	高血圧 食用
清酒*	咳止め 湿布にして喉を冷やす
梅干	腹痛・下痢 食用，外用
番茶*	糖尿病 茶料
米糠*	脚気